

マダニに注意してください

「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」をご存知ですか？

この街の草むらや山林には、マダニが生息していることが確認されています。ペットに付いているのを見つけたり、自分の体に付いて、咬まれた経験のある方は少なくないと思います。マダニは、ウイルスによる感染症の媒体であることをご存知でしょうか。今回は、マダニによる感染症のことと、感染防止について、皆様にお知らせします。

○重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

SFTSウイルスによる感染症で、主にマダニに咬まれて感染します。すべてのマダニがこのウイルスを持っている訳ではありません。咬まれて、6日から2週間ほどの潜伏期間を経て、発熱や全身のだるさ、吐き気などの症状が出ます。重症化して死亡する例もあります。死亡例は全て50歳代以上で、高齢者が重症化しやすいと考えられています。今のところワクチンや特効薬はなく、水分補給や解熱剤投与などの対症療法が治療の中心です。

○最近の発症例について

- * 平成25年1月30日公表 山口県において、日本初の症例。成人女性(年齢非公開)死亡
- * 平成27年5月19日公表 福岡県で初めて確認される。30歳代女性 生存
- * 平成27年6月26日公表 福岡県において、3例目の発症。80代女性 死亡
- * 平成27年6月30日公表 福岡県において、4例目の発症。88歳女性 死亡

SFTSは国内で初めて感染が判明してから今年8月までに298人の発症例があり、そのうち59名が死亡。致死率は20%に上ります。

以上は、マダニに咬まれたことによる発症ですが、例外的なものとして平成29年7月24日に、世界初の例として厚生労働省が明らかにした症例もあります。「平成28年5～7月頃、関西在住の50歳代女性が、猫に咬まれた。女性には重篤な持病など無く、約10日後に死亡した。半年後に感染症研究所が女性の検体を精査したところ、猫を介してSFTSを発症した可能性が否定できない」との発表でした。女性を咬んだ猫は、草むらで弱っていたため、保護しようとしたノラネコとの事です。

○マダニに咬まれないために・・・①

- ・マダニは、山林、草地、荒地などに生息しているほか、公園や、住宅地の庭でも確認されています。特に、春から秋にかけて活動が活発です。
- ・マダニの生息する場所に入る時には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴下、靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻くなど、なるべく肌の露出をしないようにしましょう。

○マダニに咬まれないために・・・②

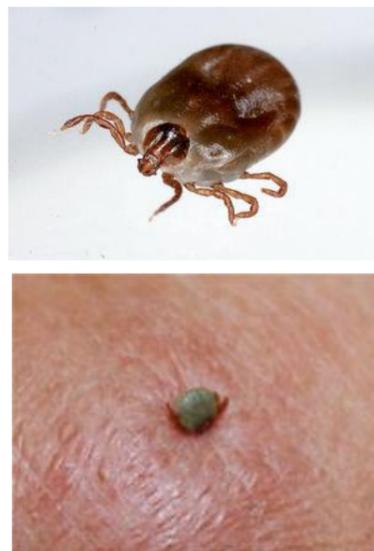
- ・マダニは、本来野生動物の体に寄生していましたが、人間と動物の生活境界が接近して、私達の周辺に生息するようになって、人やペットにも寄生するようになったと考えられます。
- ・ノラ猫に触れることは、実は大変危険な事と認識してください。

○マダニに咬まれたら

マダニに咬まれたら、自分で対処せず、皮膚科のある病院で取ってもらい、事後の注意などを専門医に聞いてください。

- * これからは、私達自身がマダニに気を付けるとともに、ノラネコや野生動物などが徘徊しない、街の環境作りが必要です。

・本記事は福岡県保健医療介護部感染症対策係に確認して掲載しております。
(後藤記)



高木地区への応援

農業体験チームからの報告 (その2)

先月の報告後、更に皆様のご協力を得て実施している、「農業体験」チームから、「高木地区(黒川)応援」の取組状況を報告します。

○高木梨の販売

9月9日、22日に高木梨の販売を実施しました。出荷の時期と、街の行事の都合から販売のご案内が直前になったりしましたが、両日とも用意しました梨は完売できました。これまでに、皆様に購入頂いた「高木梨」の総数量は800kgを越えました。林さんが、地区の生産者に呼び掛け、家庭用B級品と、贈答化粧箱の手配を、毎回段取りして下さいます。

来月の中旬には、高木梨の代表「新高」が登場しますので、ご期待ください。贈答用の5kg入り化粧箱については、常時コミ協事務所にて受け付けていますので、ご連絡ください。お宅までお届けするか、配送伝票に記載頂ければセンターに集荷に来てもらいます。

○今後の農業支援の予定

林さんの耕作地の秋野菜の収穫の他、10月初旬には、稲刈りを予定しています。水害で田んぼに土砂が入り、機械での刈り取りが出来ず、手刈が必要との事です。かなりきつい作業ですが、短時間でもお手伝いできればと考え、皆様のご参加を呼びかけます。(農業体験チーム古川)



区会連絡

★長寿お祝金をお贈りしました。

区会では、毎年9月に満80歳を迎えられた方に、区会会則により長寿祝金をお贈りしています。今年、次の皆様に区会役員がお宅に伺ってお渡ししました。

- 熊本様 橋村様 大野様 初島様
- 前田様 宮寺様 中村様 山崎様
- 轟様 本多様 鬼崎様

※9月30日での年齢ですが、万一対象年齢の方で、漏れがありましたらご遠慮なくお申し出ください。同居のご家族ご親族の方も含みます。

★朝倉市の災害復旧方針と美奈宜の杜の『まちづくり』の進め方

朝倉市は7月の豪雨災害からの復興のため、9月議会で100億円の補正予算を計上します。また、学識経験者40名や、被災地域の地区協議会からなる体制を組み、復旧・復興計画の立案に当たると発表しました。当面市の動きは、復興・復旧が中心になります。

このため、今まで進めていた朝倉市創生計画は、大きく影響を受け、当地区の『まちづくり』の推進にも影響が出ると思われます。これから更に高齢化が進むこの街の『まちづくり』には、それほどゆっくりした時間はありません。今後しばらくは、行政の補助や支援を期待した推進よりは、私達住民の自己責任で、西ビルと協調した取り組みの推進が必要です。

『まちづくり』協議会では、今後も多くの住民の方々のご意見を聞きながら『まちづくり』を進めたいと思います。近いうちに皆様からのご意見を聴取する機会を作る予定です。(『まちづくり』協議会 鶴田)

新しい住民のご紹介

○岡田さん

(定住)

—編集後記— この5年間で、子どもの人口が13名増加しました。

当地区には、6名の0歳児が暮らしていることを、皆様にご存知でしょうか。9月24日に三奈木小学校の運動会に顔を出してみると、来春は、当地区から3名の子供が新1年生になると紹介されていました。15歳以下の子どもは45名を超え、多くの子ども達が地元の小中学校で学び、朝倉市・美奈宜の杜をふる里として育っています。地元の学校の応援としてこの春、学校後援会費の拠出に、多くの住民の賛同を得ました。シニアだけでなく、若い世代や子ども達も暮らしやすい『まちづくり』は、将来この街を担う住民の育成につながります。シニア世代と子育て世代の交流をもっと進めて、『多世代のまちづくり』を考える機会を増やす努力が必要です。 福元記

